

他地域のくらし

三重県 公立小学校教諭

1. はじめに

近所に讃岐うどんの店ができた。店主はいつもニコニコの優しいおじさんで、早速お友だちになった児童もいるもよう。おじさんは香川県の出身で、縁があってこちらに店を構えたという。

ちょうど、社会科の「各地の人々のくらし」がはじまったところで、数人の児童が休みの日におじさんにインタビュー。「香川はね、暖かいのはこちらといっしょだけど、お百姓の苦勞するところだね。たいへんだったよ」

2. 香川県って？

とはいっても、子どもたちの香川についての知識はお寒いかぎり。讃岐うどんが香川県産ときいて「へーえ」というありさまである。

そこで、帝国書院版『小学生の地図帳（初訂版）』p.1～2で香川県の位置を確認させ、p.25～26「四国地方の地図」を見てイメージをださせせた。

その結果、「狭い」「平野が比較的広い」といったイメージがだされた。

3. 地図帳を活用しよう

讃岐平野には早くから水田が開かれ、奈良時代にはすでに、現在の面積の7割にあたる水田地帯が開

かれていたという。以後、農業の発達のための努力の大半は用水の確保にあてられてきた。この事実気づき、讃岐平野の人々のくらしに迫るため、地図帳をさらに活用することにした。

①おじさんのことばには、とてもだいじなヒントが示されていた。まず、これを画用紙に書いて黒板上に呈示。

②もう一度、地図帳を探索。今度はp.26の香川県の拡大図を利用する。

③続いて、p.58 私たちの国土「気候」を利用。

グループに別れ、まずは地図の探索。議論をし、意見をまとめて発表する。おじさんのことばから何を発見できるか、が課題。

気づき1：大きな用水路がある。しかも『香川用水』という名前まで書いてある。

気づき2：6月の降水量をみると、高松付近だけが極端に少ない。

気づき3：香川県は山が少ない。標高も低い。川に流れる水の量が少ないのではないか。

等の考えがだされた。農業には不可欠の水の確保に、この地域は長年苦勞してきたにちがいない、という推論がなされた。最後に、教師が讃岐平野の航空写真（満濃池は実に巨大である!）と新聞記事（湯水のように水を伝えるもの）を呈示して、推論を補強した。

4. 資料としての地図帳の価値

最近パソコンを使っての調べ学習もよく行うが、調べそのものは早く切りあげて、推論に時間をかけたいとき、必要最小限の情報コンパクトにまとまっている地図帳は実に有用である。

5. おわりに

—香川が近くなったみたい—
学習のきっかけを提供してくれたおじさんにお礼方々、学習のようすを伝えると、何と翌日、うどん玉を持ってきて「うどん切り」の実演を見せてくれた。実は、おじさんの故郷は屋島の東の入り江。大河ドラマの義経が弓を流した所という。子どもたちの香川への関心がにわかに盛りあがった。



帝国書院『小学生の地図帳（初訂版）』p.26